

五 通 神 社

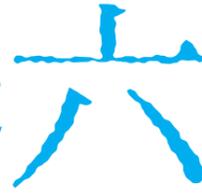


勝沼町中原に鎮座する。本殿は寛文6年(1666)建立の二間社流造で、全体的に装飾がなく、落ち着いた雰囲気を出しています。「通の宮」「通大神」と呼ばれ、中牛奥、中原、菱山で信仰されています。通大神が瓊瓊杵尊で男神、一方、一之宮が木花咲耶姫命で、毎年1回通ったので通の宮といわれるようになりました。「通大神が木花へ通うのに男振りをしていく川が鬢櫛川」で、そこを経て一宮のお明神さんのもとへ通ったといわれています。

鉄道敷設時に造られたレンガ造の道路隧道。全長29メートルで、2本の隧道が連結しており、上部は明治36年(1903)の鉄道開通時に、下部は(西半)は大正2年(1913)の勝沼駅設置に伴うスイッチバックの引き込み線設置時に造られ、現在は歩道として利用されています。



六 菱山道路隧道



ひと息
コラム

勝沼ぶどう郷駅

中央線の開通時には勝沼地域には駅がなく、大正2年(1913)に開設された「勝沼駅」は、旅客運搬だけでなくぶどうや葡萄酒の物資運搬にも重要な役割を担っていました。当時は、急な傾斜面の線路の勾配を緩和するために考えられたスイッチバック方式が採用され、昭和43年(1968)に勝沼駅が複線化されるまで利用されていました。春には旧プラットホームには碁六桜(地元碁六会が植え)



🔍お問い合わせ先

甲州市教育委員会 文化財課
Tel.0553-32-5076

ぶどうの丘は どうして 丘になったのか?

地形・地質の視点から巡る散策会



2.17.2019

中牛奥の山の手にある観音堂で、清谷寺の兼帯である。観音の縁日は4月17日で、稚児行列が出ました。その日には牛奥山で山仕事をしたり、馬の仕事をしたりする人が講をたてて参詣しました。



二 岩堂七分水口



岩堂七分水はJR中央線の鉄橋が川に架かる辺りで取水し、扇状地の「扇の要」の位置である岩堂で3方向に分水され、以後それぞれ交わり、扇状地全体を潤しています。3分水するにあたり、昭和2年(1927)にコンクリート製の円筒形の分水口が設置されました。水を均等に3分水する為、中心の小円筒からサイフォン原理で水を湧かせ、その回りの中円筒で水を均し、3つの隔壁付きの外円筒に分けています。【登録有形文化財】

二 小丸山百番観音



勝沼町菱山の小丸山の北西斜面に、文政6年(1823)、赤坂・坂下・中村の人々が中心となり、北は室伏村から南は奈良原村まで、峡東地方一円に呼びかけ、東漸寺を本願として、山裾に尼寺である春庵を移して、百番霊場が建立されました。石工は信州伊那郡の場村の小林理兵衛と藤原邦秀重の二人です。現在も山道を登りながら、八十八体の石仏を拜むことができます。【市指定史跡】

勝沼町菱山・小佐手の思蓮山に所在し、季節ごとに彩りを交えるふどう畑の風景にしっくりなじみ、甲州市のシンボルとなっています。ワイナリーには約200種類のワイナリーがあり、試飲しながらお気に入りのワイナリーを購入できます。甲府盆地の展望や夜景が素晴らしい、恋人の聖地に認定されています。



勝沼ぶどうの丘

四 岩堂観音